

磐梯火山、会津テラス計画地、2024年春の現状

－ブナ林は1888年噴火直後から形成－

磐梯連峰の赤埴山の開発計画「会津テラス計画」については、そくほう793・806号で報じた。2024年5月5日～6月14日の9日間（山頂部は1日）、現地調査を行ったので報告する（写真参照）。また、福島地方雑誌「政経東北4月号」に本件が取り上げられ、私の見解が1ページ分掲載された。その影響か、6月14日時点で工事は再開されていない。

「赤埴林道から西に延びる伐採地」は、赤埴林道のつづら折の上部の西端1275m付近から西に延びる。距離は約400m、幅は斜面なりに約25～40m、斜面傾斜は30～40度、局地的に45度であった。今年になり8回、この地に入った。重要点を5つ書く。第1点：谷地形の場所（斜面傾斜約40度）に、アグルチネート塊（径1～3m）が密在する。周辺斜面では点在する程度である。この事実から、私には、山頂部の岩塊群が徐々に崩落し、これをブナの巨木が堰止めているように見えた。第2点：千葉（2009）で、「1888年噴火の噴石落下孔」が鏡沼の沼底にあること、および赤埴山南斜面にも存在することを報告した。赤埴山南斜面には噴石落下孔が多数存在するが、木や藪で全体像を見ることは難しい。伐採地では、木や藪がなく全体像を見ることができる。第3点：廃墟施設。朽ちた施設が数か所で放置されている。第4点：猛禽類の存在。5月30日、私の頭上約10mに猛禽類が現れた。環境省裏磐梯事務所に問合わせた。回答は「イヌワシは稀に見ることがあり、オオタカは営巣している。オオタカではないか。」であった。第5点：巨大なブナの存在と伐採。伐採地周辺はブナ林で、切株の数は直径約20cm以上で403であった。径約60cmと約85cmの2株で年輪を数えると約110と約100であった。中心部ほど密な傾向がある。このブナ林は1888年噴火直後から形成されたと考えられる。また、磐梯山の自然環境の変遷を記録しており貴重である。

「山頂近くのレストハウス予定地」は、山頂付近の稜線に接する。元々は低木と地竹の藪であるが、切り払われて広い空間となっていた。

私が最も懸念するのは「アグルチネート岩塊群の崩壊」である。安息角を超えている可能性が高い。ブナを切り倒したことにより崩壊の危険性が高まったと思う。私は法規には疎いが、この開発は「森林法：災害の防止、

環境の保全（林野庁HPより）」に抵触する可能性が高いと考える。さらに、ブナ林はこれ以上伐採させてはならない。伐採された地域の西側も伐採予定地で、下草が切り払われている。ここには幹の直径60cm以上のブナが大量に存在している。

5月22日と6月15日、私は環境省裏磐梯事務所に調査データと意見を送った。回答は「書類上の問題はないので許可した。ただし、現状報告を受けたので、早急に視察に行く。また、ブナの伐採木の保存も検討する。」であった。今後も経過を観察し随時報告するつもりである。

文献：千葉 茂樹 (2009) 磐梯火山1888年噴火の噴石落下孔．地球科学, 63: 355-364.

(2024.06.15 福島支部 千葉茂樹)



— そくほう No.813 —

2024年10月1日発行（毎月1回1日発行）

編集 地学団体研究会全国運営委員会事務局

〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-16-6 古峯ビル402

Email: chidanken@tokyo.email.ne.jp

郵便振替 00160 - 2 - 144318 地学団体研究会

発行 地学団体研究会

TEL: 03-3983-3378 FAX: 03-3983-7525

https://www.chidanken.jp